

2018年
4月10日

№233

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)

TEL・FAX 077-545-5154

原発のない社会へ 2018びわこ集会
忘れない フクシマ まもりたい いのちとびわ湖


「原発NO！ 大飯再稼働反対 高浜稼働停止！」の紙を掲げ、コールする参加者（左に金融労連の幟）

1000人が「原発NO！」

東日本大震災と福島第一原発事故から7年目の3月11日、「原発のない社会へ2018びわこ集会」が大津市の膳所城跡公園などで開かれ、1000人が、金融労連の仲間10人（内さざなみネット4人）が参加しました。

集会は10時に始まり、大津市生涯学習センターでは、チェルノブイリと福島原発事故を取材する写真家の広河隆一さんが甲状腺がんに苦しむ子どもたちの実態などを講演。広島原爆投下と福島

原発事故をつなぐ記録映画「太陽が落ちた日」の上映や「『この大地フクシマ奪われし人々』菊池和子写真展」が行われました。

膳所公園では、舞台上「ライブ&リレートーク」が、またこだわりマーケットが始まり、参加者は手作り作品の販売や買い物、食事そして音楽を楽しみました。

13時30分からの集会では、呼びかけ人畑明郎さんによる黙とうと主催者あいさつ。

基調報告は井戸謙一弁護士が、次ページのように、詳細に分かりやすく話されました。

国策の犠牲者に罪をなすりつけないで

福島県南相馬市から大津市に避難して7年目の青田恵子さんは「いま、自分の置かれている状況は、すでに避難者ではなく、「難民」と語り、「国策の犠牲者に罪をなすりつけないで」と自作の詩で訴えました。

「大飯原発再稼働を許さず、放射能からびわ湖を守り、私たちと子々孫々の生活を守りぬきましょう」とする集会アピールを採択。集会後、「高浜原発今すぐとめろ」「再稼働やめろ」「原発ゼロの社会を」

などとコールしながら、関西電力滋賀支社前を通過して西武前までデモ行進しました。



集まった金融労連の仲間



白モクレン 岩波 美智子さん 画

基調報告概要 井戸弁護士

国や電力会社は「世界一の新規制基準で原発が事故を起こす恐れはまずない。被ばくしても大した健康被害は生じない」などの新しい放射能安全神話をふりまき、原発裁判は一進一退の

現状だが、原発はいらないとの市民の意識は定着してきている。小泉元首相も「原発ゼロ・自然エネルギー法案」を発表。またトモダチ作戦により三陸沖で被爆したアメリカ海軍では、すでに9名の死者を出し水兵400名が、東電を訴えてアメリカで裁判を闘い「私たちの裁

判が日本の人々の助けになれば」と話している。

原発はなくせる問題は第2のフクシマの前になくすこと

原発が過酷事故を起こしたら膨大な数の人びとに深刻な健康被害を及ぼす。原発がなくても電気は足りており再生エネルギーのコストは原発を大きく下回ってきている。市民の圧倒的な意思で裁判所を動かしていこう。原発を無くすことはできる。問題は、第2のフクシマの前に無くすことができるかだ。次世代・将来の世代のために、地球の生きとし生けるもののために、力を尽くしましょう。



基調報告をする井戸弁護士



デモ行進に出発

"安倍9条改憲許さない"市民集会

いろいろ工夫して3000万署名を実現しよう

3月24日、「安倍9条改憲許さない」市民集会が開催され、約200人が、さざなみネットから3人が参加しました。

「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション実行委員会」の菱山南帆子さんが「安倍改憲を許さない! 改憲発議を止めるために市民運動ができること」と題して気迫あふれる講演をしました。菱山さんは、安倍政治を「ウソばかりつくデマゴギー」「ナチスの手口で軍事大国にしようとしている」などと批判。「対抗するには対話が必要」「3000万署名には3000万対話だ」として、イベント帰りの人を狙う「おこぼれ街頭署名」、お花見会場での署名、初詣署名、8時間連続街宣など楽しく元気の出る行動を紹介し、「どんどん街に出よう」と呼びかけました。

トークセッションでは菱山さんと「安保関連法に反対するママの会」の西郷南海子さん、絵

本作家の市居みかさん、ひとつづてんとう園の西村静恵さん、くらしとせいじカフェの



パネルディスカッションで活動交流

玉崎洋子さんが「わたしたちの生活と憲法、そして政治意識」と題してパネルディスカッション。漫画の活用や紙芝居による街頭宣伝など、みんなでやればできるなどと話し合いました。

会場からは「元気をもらった。ありがとう」と何度も拍手が送られ、いろいろ工夫して3000万署名を何としても実現させようと決意を固めました。

ひととき

4月3日、暖かさ、真つ青な空、孫につられて花見に行ってきた。

姉川沿いの宮部かすみ堤と高時川堤防は、上流から下流まで延々一面桜の真つ盛り。孫は気持ちよくランニングをしていた。

余呉川・黒田付近では、堤防の桜に白モクレンと菜の花が加わり、春真つ盛り。上流の橋まで1周した。

余呉湖畔では、公園の桜の花の間に16匹の鯉のぼりが気持ちよさそうに風に泳いでいた。昼食は敦賀まで。気比松原では100年ぶりの真夏日で、孫が靴を脱いで水に入っていたら、テレビの取材を受けた。

なやまざまのつと思ひ出す桜かな



余呉川・黒田付近
桜・白モクレン・菜の花で春真つ盛り